報とするためには、次のようなことが大切だと思います。

それは、「まち興し」などの市の長期的な事業計画の内容についてや、市の重点事項とその対策などの記事を、詳しく掲載することです。これらのことを広報するということは、市民と行政との信頼関係を一層深めることになり、市民の合意を得やすくなるのではないでしょうか。

次号の発行から、考えてみてください。

女子職員を広報スタッフに

本多　カナ子

不安に思いながら市民リポーターを引き受けたのが、昨年の六月でした。七カ月がたった今、リポーターとしての責任の重さを痛感しています。何とかここまでやってこれたのは、家族や友達、広報担当者のおかげだと思っています。

記念すべき広報「おおだて」創刊五百号の編集に参加することができ、たいへん喜んでいます。昭和二十六年から約三十九年間続けられてきた広報、市政と市民とを結ぶ重要な役割を果たしてきました。情報化時代を迎え、今後広報の果たす役割はますます重要になっていくと思います。

毎月二回、一日号と十六日号の広報を、欠かさず、遅れずに発行している担当職員には、頭が下がります。でも、この中に女子職員の姿がないことが残念です。これから、広報のスタッフに女子職員を加えてみてはどうでしょうか。今まで気付かなかった部分も見えてくるかもしれません。

市民リポーターとして、広報の編集に携わり、いろいろなことを勉強させてもらいました。これからは、違う角度から広報を見ることができると思います。広報担当者の活躍を期待しています。

本多カナ子リポーター（餌釣）

虻川博司リポーター（櫃崎）

年に一度は市民参加の広報を

虻川　博司

今回市民リポーターとして、広報というものについて、あるいは市行政などについて勉強させていただきましたが、あらためて広報の重要さを認識させられた思いです。これまでは、正直なところ家に広報が届いても、軽い気持ちで目を通すだけでした。しかし、リポーターになったこともあってじっくり見るようになると、私たち市民にとって直接に、間接に、関係のある事柄がいっぱいなのに驚いてしまいました。

月に二回の広報を、すみずみまで読むことがなかなかできない、できなかったというのは私だけでしょうか。確かに広報にはおもしろおかしいことが書かれているわけではありません。テレビの番組案内が載ってるわけでもありません。けれども広報の役割をもう一度考えてみると、大館市が市民へ、今何をやってますよ、これから何々をしますよと知らせることが一番の役割だと思います。〝広報〟と名前がついている以上、その役割が変わることはないでしょう。

そうした中でふと思うのは、毎回というのは無理でしょうが、年に一度でも市民が作る広報、市民が参加できる広報、こういうのがあってもおもしろいのではないかなということです。

柳沢トキ子リポーター（釈迦内字中台）

広報ってなーに

柳沢　トキ子

広報とは、いったい何でしょうか。辞書で調べてみると、「広く人々に知らせること」と載っていました。

広報「おおだて」には、行政報告や市内の行事、その他たくさんの情報が載っています。それに、月二回の広報を楽しみに待っている人がたくさんいます。この二つの点からでも分かるように、広報「おおだて」は、広報としての役割を十分に果たしていると思います。でも、もっと市民に親しまれる広報にするためには、それだけでは足りないので、市民リポーターが生まれたのだと思います。

今後は、市民リポーターを決めずに、市民から自由にリポートを出してもらい、その中からいいものを広報に載せてはどうでしょうか。そうすることによって、各町内の特産品や自慢話しなども登場するでしょうから、私たちが今まで知らなかった「大館」を発見できると思います。よその町の人から、「大館市ってどんな所？」って聞かれたときに、大いに自慢できるよう、そんな話題も広報には、必要ではないでしょうか。